

大志の学び舎

## 世田谷区立太子堂小学校



『教師は授業 家庭は愛情 地域で育つ 9年間』

## 5月の目標

人格の完成を目指して  
「思いやり」

## &lt;安全&gt;

- ・学校での安全な過ごし方を確認しよう

## &lt;保健&gt;

- ・じょうぶな体をつくろう
- ・けがをふせごう

## &lt;給食&gt;

- ・あとかたづけをきちんとしよう

## &lt;あいさつ&gt;

- ・元気よくあいさつしよう

## つながりで育つ 自己有用感

校長 廣瀬 維謙

目映いばかりの新緑に、命の力強さと躍動感を感じる季節になってきました。新年度が始まり、約4週間がたちました。毎朝、各学級の様子を参観していると、意欲的に活動している姿が見られ、順調なスタートが切れているのを嬉しく思います。

さて、日本人は「自分が価値や魅力のある人間である」と感じる割合が、世界的に見ても低い傾向にあるとよく言われます。「自分に価値がある」と思えるようにするためには、「自分のよさ（魅力）は〇〇です。」と自然に言える、また「自分は将来社会の役に立つ人になれる」という気持ちをもてることが重要だと考えます。

では、そのような気持ちを育てていくためには、何が必要なのでしょうか。それは“自己有用感”です。自己有用感とは、他者や集団とのつながりの中で、自分の存在を価値のあるものとして受け止める感覚です。

この感覚は、自分は価値のある存在であるという**存在感**、自分が役に立つ行動をしているという**貢献**、自分の行動や存在が認められているという**承認**から成り立っています。そして、この三つの感覚を高めていくためには「子どもをよく見て、よさに気づき、褒める」「子どもの話をじっくり聞いたり、話しかけたりする」「活躍の場を与えて、見守り、やり遂げさせ、達成感を味わわせる」ことなどが必要になります。そして、子どもたちのよさ（魅力）を見つけたらシャワーのように言葉や態度で、認めてあげることが大切です。自分を認めてもらっていることが感じられれば、期待に応えようという意欲が出てきます。本校においても、このことを意識した教育活動をさらに推進していきたいと思えます。

また、人は誰もが三つの“たい”をもっているとも言われます。

**愛されたい****認められたい****人の役に立ちたい**

です。どれも一人だけでは成立せず、相手がいてこそその欲求です。認めてもらうことで、愛情欲求も満たされます。人は決して一人では生きていけず、一人だけでは“自己有用感”をもつことはできません。「つながり」を通して、自信をもったり、人の役に立てることに喜びを感じたりしていきます。学校生活の中で、家庭や地域社会の中で、様々な人たちとつながる機会をたくさん作り、「自分は価値や魅力のある人間である」と思える子どもたちを育てていきたいと思えます。

今月もどうぞよろしくお願ひします。

## 思いやり

相手の気持ちを大切にしながら行動していますか？

心をこめた親切ができるようになりたい。  
相手のために、自分ができることを考えて行動するよ。  
友だちが喜んでいて、自分もうれしいな。  
そうじや係活動は、みんなで助け合っているよ。

〒154-0004

世田谷区太子堂5-7-4

電話 03(3413)4621

FAX 03(3413)4799

「太子堂小学校ホームページ」の「配布文書」内に「令和7年度 学校関係者評価(各種結果)」、「令和7年度 学校関係者評価報告書」、「令和7年度 改善結果及び次年度に向けた改善方策」をアップしました。御協力ありがとうございました。